

田辺高等学校（中学校含む）

実施日時	令和元年8月22日（木）、11月5日（火）
参加者	高校1年生317名、中学校1年生78名、教職員10名、 地域住民等5名 計410名
実施内容	8月22日（木）講演、11月5日（火）避難訓練及びワークショップ

ねらい

近い将来予想される南海トラフ地震などの自然災害の発生に備え、地域と連携した防災・減災に関する専門的な知識や技術を習得するための防災スクールを通して、防災への意識を高めるとともに、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を図る。



講演の様子

主なプログラム

8月22日（木）防災スクールⅠ

東日本大震災を経験された講師による講演

11月5日（火）防災スクールⅡ

避難訓練及びグループワーク



講演後、講師と防災委員の質疑応答の様子

概要

8月22日（木）防災スクールⅠ

東日本大震災を経験された講師による講演

演題

「災間を生きる君たちへ ～震災を語り継ぐ～」

講師 齋藤 幸男 氏

元宮城県立石巻西高等学校長・防災士

東北大学 非常勤講師

雁部那由多 氏

宮城県東松島山市立大曲小学校卒業

東北学院大学 学生講演

講演後、防災委員と講師先生と懇談・質疑応答

11月5日（火）防災スクールⅡ

避難訓練及びグループワーク

9:00～9:40 避難訓練の事前学習（全校生徒）

9:50～10:40 防災避難訓練（全校生徒）

10:50 1学年集合・点呼（体育館）

10:55 開会式

11:05～12:40 ワークショップ「クロスロード」

避難所運営のシミュレーション「DIG」

※DIG(Disaster Imagination Game)

＝災害図上訓練



「クロスロード」「DIG」の様子



生徒司会の様子



「DIG」市民の方との班活動の様子

参加者感想文

防災スクールⅠ

僕は今日の話聞いて、避難所でどれほど子どもが大切であるかが分かりました。「おたがいさま」という言葉で助け合って生き延びたことが分かったので、田辺で南海トラフ巨大地震が来ても互いに助け合っていかなければいけないと思いました。そのためにも、避難所での人間関係を作ることが大事なことだと感じました。自分たちが次の大きな災害のために準備しておくことと、東日本大震災から学び取って活用していかなければいけないと思いました。

中学1年男子

雁部さんの話はすごく衝撃的なことが多かったです。1m先にいた大人の人たちが流されて亡くなってしまったこと、小学校で、震災について学校中がパニックになるから話してはいけないこと、今まで全く知らなかったことなので驚きました。齋藤先生の話は心に刺さるものがありました。避難所で、多くの問題が発生し、大人たちが揉めることがあり、それを止めたのは子供たちだった、この話を聞いて自分も止めれる立場になれるといいなと思いました。

どちらの話も、生と死の境が曖昧になってしまうということが共通していたように思います。私の周りでそうなった時のことを想像するとゾッとしますが、しっかり前をむけるように、私に出来ることを精一杯できればなと思いました。

高校1年女子

防災スクールⅡ

今回の防災スクールで、災害が起こった時には、まず自分の身の安全を守る、次に自分達が率先して迅速に避難を行うということを学び、田辺高校が避難所になった時、自分達はどう動くべきかを地域の方と一緒に話し合い、考えることが出来たと思います。災害はいつ起こるか分からないので、いつ起こってもいいように準備しておかなければならないと感じました。

高校 1 年男子

避難訓練は本番の様に実際のことを想定しながら、本番の時は避難訓練のことを思い出しながら、焦らずに落ち着いて、正しい判断をして行動しようと思った。

避難訓練はいつもスムーズに出来ているけど、実際は校舎の中がどんなになるのだろうかとか、揺れが収まって先生がすぐに放送をかけられるのだろうかとか、校庭に集まってからマイクがすぐに使える状況にあるのだろうかとか、オーシティなどに避難する際、車はどのくらい通るのだろうかとか、周りの建物はどのようになるのだろうかとか、疑問に思うことが沢山ありました。でも、訓練を重ねておくことで、それが習慣のようになって、本番の時に困る判断もしやすくなるから、大事だと思った。

高校 1 年女子

成果と課題

昨年度までと異なり、本年度の防災スクールは2本立てで行った。まず、防災スクールⅠで実際に大災害が起こったときにどのようなことが起きるのか講演をしていただき、生徒の防災に対する意識を高めた上で、11月5日「世界津波の日」に全校生徒で行われる避難訓練と併せて防災スクールⅡのワークショップを行うことにした。

【成果】

生徒達が主体的に防災に関われるように、防災委員会を組織し、生徒達自身が運営するようにした。そのおかげか、例年よりも生徒自身の防災意識が高まり、主体的にワークショップに取り組んでいたように感じられた。また、講演をしていただいた2名の講師は実際に東日本大震災を生徒として、教師として経験されている方なので、生徒達だけでなく教員にも刺激を与えることができた。

【課題】

防災委員会もまだまだ生徒が主体とはいき切れず、教師が誘導しながらの運営であったが、積極的な活動も随所に見られ、今後の活動に継続していきたい。

地域の方々との連携が少ないので、この活動を継続し、地域にも広げていくことが今後の最大の課題である。